

たてぬい建設事業協同組合

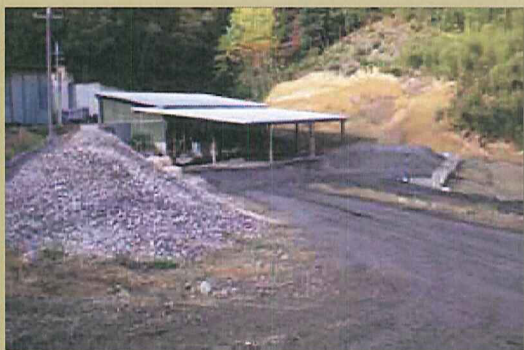
分野名 環境リサイクル（鋳物廃砂・スラグの再利用）
地域 出雲市平田町

新分野進出・経営多角化のテーマ

“循環型社会の実現を目指して” — 鋳物廃砂・スラグを土木資材として再利用するリサイクル事業 —

企業の概要

会社名 たてぬい建設事業協同組合
代表者名 理事長 山本 恭則
所在地 出雲市平田町7668
従業員数
連絡先 TEL 0853-63-5005 FAX 63-4695
URL <http://www.hit-5.net/~re-flex>
出資金 3,100千円 組合員13名



新分野進出の体制

会社名 (株)Re-FLEX
代表者名 山崎 章弘、山口 弥
所在地 出雲市平田町1101
従業員数 3名
連絡先 TEL 0853-63-4551 FAX 63-4533
URL <http://www.hit-5.net/~re-flex>
業種 産業廃棄物処理業(鉱さい)、リサイクル土木資材製造販売業

社長のアドバイス

単独での新分野進出には資金的な負担が大きく、本業の経営圧迫のリスクを伴うので、慎重にならざるを得ないのではないが、逆に、共同で取り組むことによって仲間から自分の持っていない新しい考え方や経営感覚など自分を高め学ぶこと等のメリットもあった。



■新分野進出の経緯

平成14年7月、公共事業が削減される中、戦後日本経済の復興、社会基盤整備や雇用の確保に地域貢献してきた自負に燃え、21世紀の建設業のあるべき姿と、新分野進出の研究を目的に旧平田市の建設業者10名で協同組合を設立した。

“たてぬい”は、出雲国風土記にある旧平田市一円の地名である楯縫郷(たてぬいごおり)から、出雲の職人の技術力の高さや和を重んじる風土にあやかって冠した。

事業の柱は、新規事業の開拓、鋳物廃砂・スラグの利用促進事業とLPII手法による受注体制の構築であった。旧平田市は企業誘致で鋳物工場が集積し、産業廃棄物として排出する鋳物くずの量は全国4位で、これの処分経費は工場の悩みの種となっていた。こうしたことから、組合設立の翌年の平成15年6月に同組合、鋳物工場及びしまね産業振興財団等を中心に平田市鋳物廃砂利用促進協議会を設立、調査研究を進め、実証データを得、土木建設資材としての利用に目途が立った。

この調査研究成果を事業に展開すべく平成17年1月に(株)Re-FLEXを起業設立し、製造開発した鋳物廃砂・スラグ専用のリサイクルプラントを建設した。そのプラントで再生購入土[エコマサ]再生砂[スラグサンド]等を製造販売し、循環型社会の実現を目指して事業に取り組んでいる。

■新分野進出にあたっての課題・問題点と解決の方策

環境リサイクルに関する事業では、調査研究開発や初期の設備投資に多額の経費がかかり、製品原価を引き上げる結果となる。しかし、製品を販売するにあたり、市場価格に合わせなくてはならないが、実際、安い価格で販売しなくてはならないのが実態である。

「いらなくなった物のリサイクル製品は当然安いだらう」との固定観念が存在し、商品としての差別化・付加価値を如何につけていくかが課題である。

コスト削減は終わりのない課題であり、徹底した原価管理に努めていかなければならないが、価格で競争するには限界がある。

リサイクル製品やグリーン製品の活用は循環型社会の構築に不可欠であるし、既存の盛土材、砂、骨材やその他石材なども無尽蔵ではないので、公共事業での積極的な使用及び利用促進を実施して頂きたいと考えている。

■活用した支援制度

14年度 産業創出総合支援事業(しまね産業振興財団)
16年度 県 建設産業新分野進出支援事業助成金
17年度 県 建設産業新分野進出支援事業助成金
県 資源循環型技術開発事業
出雲市新ビジネス創業支援事業
18年度 県 産業廃棄物リサイクル施設等整備事業
19年度 県 産業廃棄物リサイクル施設等整備事業
新分野進出等企業支援事業(財)地域総合整備財団
20年度 県 建設産業新分野進出支援事業助成金
県 建設産業新分野進出支援事業補助金
新製品等販売促進支援事業(NPO法人21世紀出雲産業支援センター)

■取り組みにあたって意を注いだこと

リサイクル・グリーン製品である当社製品の活用が循環型社会の構築に繋がる事を理解してもらおうと同時に、既存の盛土材、砂、骨材やその他石材なども無尽蔵ではないので、公共事業などでの利用促進に向けて理解が得られるよう意を注いだ。また、事業化するにあたり、出資金・借入金等の経済的リスクも発生することになるが、全員がそれぞれの役割を理解し、明るい希望を目指して団結するための意識の高揚にも意を注いだ。

■事業の社会貢献性・地域との関わり

- ① 循環型社会の構築及びグリーン購入の推進
- ② 鋳物系産業廃棄物の減量化の推進及び排出業者の処理コストの軽減
- ③ 地域資源の有効利用及び地域産業の発展

- ④ 地元雇用機会の拡大
- ⑤ 地方(田舎)から全国へのリサイクルモデル(システム)の発信

■取り組みにあたっての反省点

① 組合員企業が14社と多数なので、それぞれの人間が適材適所の得意分野で情報収集や新規発想・知恵などが出てよかったが、反面、営業的な意識面での温度差も見られた。

② 製造製品の安定した品質確保、プラント施設の構築及び産業廃棄物処分量の許可取得等に時間を要し、事業の進捗及び推移について遅れが生じた。

■販売ルート開拓について

組合員企業が14社と多数であるため、幅広い仕事の情報が収集できるが、新規分野であり実績も少ないため、すぐに販売面に繋がらないのが現状である。

しかしながら鋳物系副産物のリサイクルによる循環型社会の構築に行政機関でも理解をされ、公共工事の土木資材として出雲市等の使用材料承認の指定を受けるとともに、環境面では“しまねグリーン製品”の認定や“しまね・ハツ・建設ブランド”の登録も受けて販売面での支援となっている。

■新分野進出の成果

目標売上高 20,000千円
～40,000千円

実績売上高 施設整備が途上であり約半分の実績となっている。

■今後の展望等

- ① 製品の付加価値の明確化とPR
- ② 民間業者への販路の確及び工事仕様書への行政支援
- ③ 製品を全国的に品質証明するためのNETIS(国土交通省)新技術登録
- ④ リサイクルプラントシステムのしまねハツ全国展開